

第6学年 ESD（総合的な学習の時間）学習指導案

日時：平成29年12月14日（木）6校時

場所：多目的ホール 授業者：富田 優美子

1 単元名 「白方から世界へⅡ

～みそを通して白方や日本のすばらしさを知ってもらおうプロジェクト～

2 児童の実態

本学級の児童は、昨年度にアメリカと交流していた6年生の活動を間近で見ており、外国の人と交流してみたいという意欲の高い児童が多い。また、昨年度は日本の農業について調べ学習をしてきたこともあり、今年度は「日本の伝統的な調味料であるみそを造ってみたい!」という声が上がった。そこで、1学期には、地域の方の協力を得ながら味噌造りを行った。さらに、今までの生活経験や総合的な学習の時間で学んだことを活用しながら、白方のよさを伝えるビデオレターを作成した。しかし、昨年度の6年生のビデオレターを見てきたこともあり、自分たちはできているという考えがあり、批判的に考え、よりよいものにしていこうという気持ちが薄かった。また、見通しや相手意識をもって学習に取り組むことを苦手とする児童もあり、ビデオレター作成には時間がかかった。

3 ESD の視点に立った学習指導について

(1) 教材について

本単元は、ビデオレターの作成や交流を通して外国とコミュニケーションを取り、お互いの文化を理解し、尊重し合うことができるようにすることをねらいとしている。外国語活動と関連付けることで言語学習につなげることができるだけでなく、言葉が分からなくても体の表現や写真・動画等を用い、自分の思いを伝えようとすることで表現力を高めることもできる教材だと考えている。これまでは、アメリカの小学生に白方のよさを伝えるビデオレターを作成し、相手を意識しながら取り組んできた。言葉だけでなく、写真や動画、ジェスチャーや表情などでも思いを伝えることができることを実感してきた。また、相手意識を持って「何を、どう伝えるのか」ということを、国語科や算数科、特別活動においても大切に学習を行ってきた。これから社会科や道徳とも関連を持たせて学習を進め、児童に世界と日本を意識させ学習を進めていきたい。

(2) 持続可能な社会づくりとの関連

今後、日本はさらなるグローバル化が進むことが予想され、外国人と積極的にコミュニケーションをとることが必要となる。そこで、児童には異文化を理解したり、尊重したりすることができる人に育ってほしい。本単元では、ビデオレターの作成を通して外国に関心を持ち、日本と異なる文化に気付きながら、お互いのよさを理解できるようにしたい。また、国語科や算数科、道徳の学習において、自分の考えを伝え合う時間を設け、様々な考えがあることに気付かせたい。これは、「持続可能な社会づくりの構成概念」のうち、「I 多様性」にあたる。また、よりよいビデオレターを目指す活動を通して、グループや学級で意見を出し合うことのよさや、言語や文化が異なっても様々な手段を用いて交流や協力をすることができることに気付かせたい。これは、「V 連携性」にあたる。さらに、自分たちの思いを、相手意識を持って伝えることを通して、積極的にコミュニケーションをとり、自分から行動を起こすことの大切さにも気付かせたい。これは、「VI 責任性」にあたると考えている。

(3) 本単元の学習指導で重視する能力・態度の内容とその指導

＜多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力＞

自分たちの思いを伝えるには、どのように伝えたらよいかを考え、計画を立てて取り組むとともに、相手意識を持って伝えようとすることができる力

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

調べ学習のまとめやビデオレターの作成において、友達と考えを交流し、自分の考えを深めながら協力してビデオレターを作成しようとする態度

＜さまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度＞

ビデオレターの交流を通して、外国について関心を持ち、日本との共通点や相違点を理解するとともに、お互いの文化を尊重しようとする態度

＜よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的・計画的に取り組む態度＞

計画的に取り組む、自分たちの思いを表現するために進んでコミュニケーションをとろうとする態度
これらの能力・態度を育てるために、本単元では次のような点に留意して指導を進める。

- ① 各グループの進捗状況・困っていること等を伝え合う時間やグループごとに話し合う時間を設けることで、自分たちの思いをしっかりと持ちながら自信をもってビデオレターの作成ができるようにする。
- ② 他教科においても、小グループで自分の思いを伝え合う場を設け、意見を伝える楽しさや意見を聞くことで自分の考えが深まる面白さに気付くことができるようにする。
- ③ 国語科、算数科、社会科、道徳、特別活動と関連させ、何をどう伝えるかを意識させた学習を行うとともに、世界と日本を意識することができるようにする。

4 単元の目標

- ・ アメリカとの交流を通して、異文化を尊重し、進んで外国と関わろうとする態度を身に付けるとともに、自国や日本のよさに気付くことができる。
- ・ ビデオレターで自分の思いや考えを分かりやすく表現することができる。

5 指導計画と評価規準（総時数 23 時間）

段階	主な学習活動 (時数)	多様な観点と見通し (学習方法)	交流と協力 (他者や社会)	つながり (他者や社会)	主体的・計画的 (自分自身)
課題の設定	＜第2回ビデオレターの内容を決めよう＞ (3) ・ 次回、アメリカに送るビデオレターの内容について話し合う。 ・ つくったみその活用方法について話し合う。	つくったみそをどのように活用するか、そしてみその何をアメリカへ伝えるのかを考えることができる。	みその活用方法について自分の考えを持ち、話し合うことができる。		1 回目のビデオレターを受けて、次回はどんなものにしたいか具体的に考え、それを伝えることができる。
情報の収集	＜伝える内容を決めよう＞ (6) ・ みそについて興味があることを一人ひとり出し、調べ学習を行う。 ・ 似ている内容を調べている児童でグループを作る。 ・ 伝えたい内容をもとに、ポスターを作り、発表会を行う。《本時》 ・ 絵コンテを作成し、撮影計画を立てる。	ビデオレターで何を伝えて、どう感じてもらいたいのかというメッセージを明確に持ち、どのような内容を撮影するのかについて考えている。 相手意識を持ち、ビデオレターが分かりやすく	グループのメッセージを自分なりに考え、友達の意見も聞きながら話し合い、決めることができる。 他グループの意見を受けて、メッセージが伝わるビデオレターにするための絵	外国の人々や社会、自然等とのつながりを大切にしてビデオレターの内容を決めることができる。	自分たちの思いを発信することにつながるよう考え、ビデオレターの絵コンテを作成したり、撮影の順序を考えて撮影計画を立てたりすることができる。

		なるよう工夫して絵コンテを作成している。	コンテを作成しようとしている。		
整理・分析	<ビデオレターを作成しよう> (5) ・ ビデオレターの撮影・編集を行う。 ・ 中間発表会を行う。 ・ 反省を受けて、ビデオレターを修正する。	撮りだめてきた映像や写真をどのように組み合わせればメッセージが伝わるのかや、非言語でも伝えることができるか考えながら、映像を撮影したり、ビデオレターを編集したりすることができる。	友達と協力しながらビデオレターの撮影・修正をすることができる。	外国の人々や社会、環境等とのつながりを大切にしてビデオレターを撮影したり、編集したりすることができる。	見通しを持って、進んで役割分担をしながらビデオレターの撮影をすることができる。
まとめ・表現	<今までの活動を振り返ろう> (3) ・ 地域の方、全校生を招き、「みそフェス」を行う。 ・ 活動の振り返りを行う。	1年間の活動内容や作成したビデオレターの良かった点や、来年度に生かせる点を話し合い、考えをまとめることができる。	ビデオレターを含む1年間の活動についての感想を交流し、友達と協力して自分達の思いを実現できた達成感を味わうことができる。	ビデオレターによる交流を通して、外国のことを知ったり、コミュニケーションをとったりすることの大切さを理解することができる。	作成したビデオレターを見て、良かった点や来年度に生かせる点について、自分の考えを持つことができる。

6 本時のねらい

調べてきた内容を、作成したポスターやみそ造りを行った際の写真や映像とともに、訪問者に伝えることを通して、メッセージをより分かりやすく伝えるための方法を話し合うことができる。

8 準備物

- ・ iPad (班の台数分)
- ・ 大型ディスプレイ
- ・ 接続ケーブル (映像、音声)
- ・ ワークシート
- ・ 付箋

7 指導過程

段階	学習内容・活動	時間	○ 指導上の留意点 * ESD の視点に立った留意点 ・ 評価 <ESD で重視する能力・態度>
導入	1 本時のめあてを確認する。	5	○ 本時の位置づけを確認する。また、最終的に伝える相手を意識させることで視点の明確化を図る。 ○ よりよいこれからについて考えることで、さらにアメリカとの交流が深まり、自分達の活動も深まることを確認する。
展開	㊟ 発表を聴き合い、メッセージがより伝わるようにするためにはどうすればよいのかを考えよう。 2 発表を聴き合い、話し合う。 (1) 発表を聴き合い、付箋に考えを書いて話し合う。 (2) 隣のグループへ移動し、発表を聴き合い、付箋に考えを書いて話し合う。 ・ グラフがあるといいのではないかな。 ・ 写真だけでは様子が伝わらない。 ・ 栄養素の名前だけで素晴らしさは伝わるのかな。	20	○ 4つのグループのうち2グループ(各7人グループ)にそれぞれ調べたことを発表させる。班員7人を3人・4人に分け、一方が発表者となり、もう一方は訪問者となって他のグループの発表を聞き、付箋にコメントを書かせる。残りの2グループも訪問者となり、発表を聞きに行かせる。 ○ メッセージを訪問者に伝えてから発表する。 * 訪問者には、「相手意識を持ち、自分達のメッセージをより分かりやすく表現するにはどうすればよいのか」という視点で発表を聴かせる。また、発表者には、見てほしい観点に沿って話し合いを進めさせる。 <多様な観点と見通し> <主体的・計画的> (付箋の色…赤：分かりやすかった点、青…分かりにくかった・もっと知りたい点(アドバイスも含む)、黄…感想(発表を聴いてどう感じたか))
	3 自分のグループで話し合う。 (1) 付箋の島分けをして意見を整理する。 (2) 全体で分かりやすかった点と分かりにくかった点や感想を発表し、効果的な発信の仕方を確認する。 (3) グループで今後の計画を確認する。 ・ 家でどのように保管されているのか撮影してこよう。 ・ インタビューの映像を撮影しよう。 ・ メリットをもっとくわしくのせよう。	17	* 意見を書き終わった児童から順番に付箋を貼り、話し合わせる。 <交流と協力> <多様な観点と見通し> * 分かりやすかった点と分かりにくかった点それぞれに理由を付けて話し合わせ、発表の聴き方を学ぶことができるようにする。また、今後の計画立てに役立てるようにする。 <交流と協力> <多様な観点と見通し> ○ 訪問者のみの2グループには、自分達に生かせることをワークシートにメモさせる。 ○ 訪問者から出された意見を、なぜ分かりやすかったのか、なぜ分かりにくかったのかという視点で板書をし、効果的な発信の仕方を確認することができるようにする。
	4 学習を振り返る。 (1) 本時の活動の様子を振り返り欄に記入し、感想を伝え合う。 (2) 次時の学習内容を考える。	5	* 今後ビデオレターを作成するにあたって、どのような点を工夫したり、気を付けたりして撮影するのかについてグループで確認することで見通しを持てるようにする。 <交流と協力> <主体的・計画的> ・ メッセージをより分かりやすく伝えるためにどうすればよいのかについての考えを持つことができたか。 (発表・ワークシート) <多様な観点と見通し> ○ 振り返りで簡単に自己評価をさせる。 ○ 1～2名に感想を発表させ、学び合いのよさを実感させるとともに、一人ひとりを称賛することで自己有用感を持たせ、次時の意欲付けを図る。 ○ 自分たちの行動は、持続可能な社会づくりにとって大切なものであることを自覚させ、次時の活動につなげる。
終末			

(3) 授業研究の様子 (E S D の視点に立った能力や態度を育成するための手立てに沿って)
＜導入段階「本時のめあてを確認する。」＞

授業の初めには、最終の発信相手がアメリカの小学生であることを再確認した。みそフェスに来るお客様は日本人なので対象が変わってしまうように感じるが、「みそに関して詳しいとは限らない」という点では似ている点もあることを全体で確認し、今回の活動を行うにあたっての相手意識を持たせた。

＜ 展開段階「発表を聴き合い、メッセージがより伝わるようにするためにはどうすればよいのかについてワールドカフェ方式で話し合う。」 ＞

- ① 訪問者には、「相手意識を持ち、自分達のメッセージをより分かりやすく表現するにはどうすればよいのか」という視点で発表を聴かせる。また、発表者には、見てほしい観点に沿って話し合いを進めさせる。

＜多様な観点と見通し＞ ＜主体的・計画的＞

発表者に「何を伝えてどう感じてほしいのか (メッセージ)」を発表させることで、訪問者が映像を見る観点をはっきりとさせた。



- 発表グループのメッセージをしっかりと理解し、それに沿って映像を見て、分かりやすかった点をたくさん見つけることができた。
- みそのことを詳しく知らない人の気持ちになって映像を見ることができるようにする指導が足りなかった。

- ② 意見を書き終わった児童から順番に付箋を貼り、話し合わせる。

＜交流と協力＞ ＜多様な観点と見通し＞

訪問者は、映像を見て付箋 (赤：分かりやすかった点、青…分かりにくかった・もっと知りたい点 (アドバイスも含む)、黄…感想 (発表を聴いてどう感じたか)) に考えを書き、自分の考えを述べながら付箋を模造紙に貼っていった。

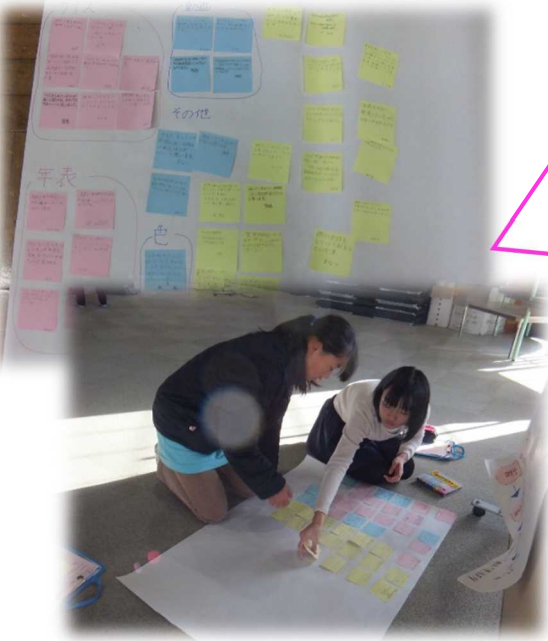
- 訪問者は、「ポスターへの効果的なまとめ方や発信の仕方」について、理由をつけて付箋に考えを書くことができた。
- 話し合いの中で、友達の考えをよく聞き、自分と考えが似ている点や違う点を意識しながら発表する姿が見られた。
- 友だちの考えを聞いた上で、話し合いをつなげる言葉を言えるようにする指導が足りなかった。
- 見る観点を意識することができなかった児童もいた。相手意識の持たせ方をもっとしっかり計画するべきだった。



- ③ 分かりやすかった点と分かりにくかった点それぞれに理由を付けて話し合わせ、発表の聴き方を学ぶことができるようにする。また、今後の計画立てに役立てるようにする。

＜交流と協力＞ ＜多様な観点と見通し＞

自分の考えには必ず理由つけて発表させることで、根拠を明確にし、「発表を聴く際のポイント」を理解させたいと考えた。



- どうしてそのセリフの時にそのような動画を流したのかや、この部分はメッセージを伝えるためになぜ発表したのか質問をし、話し合いをすることができた。
- 一人ひとりの考えをよく聞き理解しようとする姿が見られた。
- 出された意見に対して、自分達の思いを自信をもって伝えることができなかった。
- 内容に触れた意見も出たが、その意見からどのようにしていけばよいかなどと、今後の話し合いにつながらなかった。

- ④ 今後ビデオレターを作成するにあたって、どのような点を工夫したり、気を付けたりして撮影するのかについてグループで確認することで見通しを持てるようにする。

＜交流と協力＞ ＜主体的・計画的＞

全体での話し合いの前に、各グループに戻って今後の撮影の見通しを立てさせた。もらった考えの中からどのようなことを生かして今後ビデオレターを作成していくか話し合う時間を設けた。本時では、話し合った内容を発表させる時間が取れず、後日行った。

- 素早く島分けを行って付箋を整理することができた。
- 前時に意見をもらっていた2つのグループや、島分けが早く終わったグループは、島の名前を色ペンで書き込み、次時はどのような点に注意して撮影・編集を進めていけばよいか見通しをもつことができた。
- 後日の全体での発表では、場面に合ったBGMや写真を入れること、作ったポスターも動画に入れること、メッセージを再確認するなどが出された。



< 終末段階「本時の学習を振り返る」>

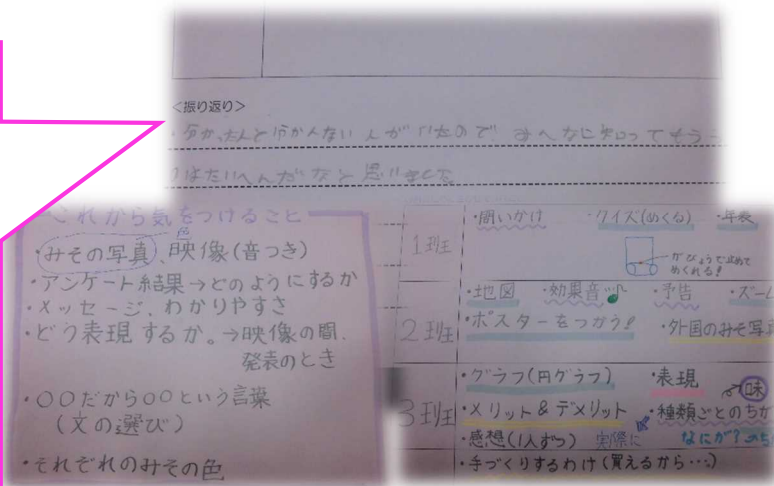
後日、第1弾目のビデオレターにおいて、日本の遊びグループが作成した遊び道具をアメリカに持って行ってもらったことを話した。自分たちが行ったことが、世界へと広がっていく喜びを実感させ、外国と交流することでお互いの文化を理解し、世界中の人とつながることができることを伝えた。今活動しているプロジェクトはもちろん、本時の活動も今よりもよいものを作ろうとする活動であり、それはまさに、よりよい未来をつくるために必要な力であることを伝えた。



- 自分が作った遊び道具がアメリカに届くことに喜び、これからの活動への意欲につながることができた。
- 5年生のビデオレターを見たり、昨年度の6年生のビデオレターを見たりしてきたため、字幕やBGMをつけるといった意見は多く出た。
- カメラワークやジェスチャー等の非言語的なことは、児童から出てこなかった。意識させるようにする指導が足りなかった。

授業の終末には、振り返りシートを記入させてきたが、本時では記入する時間を確保することができず、後日記入させた。

- 訪問者（児童・教師）からたくさん意見をもらい、自分たちの思いを誰かに伝えることの難しさを実感した児童が数人いた。よい経験になった。
- 本時では「自分のグループでも生かせそうなこと」をメモできていなかった児童も、時間を設け書くことができた。



< 次時「話し合ったことを生かして、ビデオレターの撮影・編集を行う」>



- 前時の話し合いを生かして撮影・編集をすることができた。
- 課題が多いグループは順序を考えさせて一つずつ取り組ませた。